

2015年6月号

6月15日(月)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

月刊 温根内通信 No. 225



暖かい春、寒い初夏…

3月から暖かい日が続き、4月5月も平年よりも気温が高かったので、花が咲くのも全体的に早く推移してきました。

6月に入り、肌寒い日が続き、晴れ間も少なく、釧路湿原らしい冷涼な気候に戻りつつあります。足早に咲いた花たちもこれで一休み、平年通りの開花時期に戻るのでしょうか？

☆☆☆温根内ビジターセンター 探勝木道周辺の自然情報☆☆☆



～温根内探勝木道周辺の植物～



【ミツガシワ】
ミツガシワ科 三柏
ヨシ・スゲ湿原の比較的水気の多い場所で見られます。花をよく見るとめしべのある花柱の長い花と短い花があるのが分かります。



【ハナタネツケバナ】
アブラナ科 花種漬花
ヨシ・スゲ湿原で普通に見られますが、絶滅危惧ⅠB類(EN)にランクされていて、非常に珍しく、道東でもごく一部でしか見られません。



【ワタスゲ (果穂)】
カヤツリグサ科 綿菅
白い綿毛が花と思われることが多いですが、これは花被が白い糸状に伸びたもので、風を受けて実を飛ばします。スゴケ湿原で見られます。



【コンロンソウ】
アブラナ科 崑崙草
上のハナタネツケバナに似ていますが、湿原内ではなく、鶴居軌道跡で見られます。同じアブラナ科の仲間ですが、こちらは全国で見られます。



【ネムロブシダマ】
スイカズラ科 根室附子玉
道東に多く見られ、この周辺ではビジターセンター裏の森の中で見られます。秋に赤く熟す果実は有毒で、注意が必要です。絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



【コケイラン】
ラン科 小蕙蘭
鶴居軌道跡の薄暗い場所でひっそりと咲いています。細長い葉は秋になっても枯れずに残り、寒い冬を越えて春まで見られます。

○表紙の写真 上：ミスゴケ湿原とイソツツジ群落 中右：エソノタチツボスミレ 中左：イソツツジ 下：ミツガシワ (長花柱花)

～温根内探勝木道周辺の野鳥～

木道周辺ではエソハルゼミが鳴き、木々の葉も茂り、野鳥を見つけるのが難しくなってきました。それでも朝早い時間帯は、野鳥の動きも活発なので、比較的見つけやすく、おすすめです。ビジターセンターでは双眼鏡を無料で貸し出しています。お気軽にご利用ください。



【オオジュリン（メス）】
ホオジロ科 大寿林 夏鳥
メスはこれから卵を温める時期なので、見られなくなりますが、ヒナがかえるとせっせと餌を運ぶ姿が見られるようになります。



【オオジュリン（オス）】
ホオジロ科 大寿林 夏鳥
ヨシ・スゲ湿原で見られ、枯れヨシの枝先などでさえするので見つけやすい鳥です。この個体はよく見ると右足に足環がついています。



【キビタキ（オス）】
ヒタキ科 黄鶯 夏鳥
黒、黄、橙が鮮やかで美しいキビタキは、ビジターセンター裏の森で見られます。活動が活発な朝早い時間帯がおすすめです。



【センダイムシクイ】 夏鳥
ムシクイ科 仙台虫食
姿が若葉の色に似ているので目立ちませんが、「チヨチヨビー」という声で存在に気づきます。ハンノキ林や丘陵地周辺で見られます。

○温根内探勝木道周辺で観察された花（5月15日～6月14日）※和名は五十音順

■イソツツジ（木本） ■イタヤカエデ（木本） ■エソエンゴサク ■エソオオサクラソウ ■エソカラマツ ■エソニワトコ（木本） ■エソネコノメソウ ■エソノクサイチゴ ■エソノタチツボスミレ ■エソハリスゲ ■エナシヒゴクサ ■エンコウソウ ■オオアマドコロ ■オオイヌノフグリ ■オオカサスゲ ■オオツリバナ ■オオバタネツケバナ ■オオバナノエンレイソウ ■オオヤマフスマ ■カキツバタ ■カタバミ ■カブスゲ ■カラコギカエデ（木本） ■カラフトホソバハコベ ■キジムシロ ■ギョウジャニンニク ■クリイロスゲ ■クロミノウグイスカグラ（木本） ■コケイラン ■コツマトリソウ ■コハコベ ■コンロンソウ ■サギスゲ（花・綿毛） ■サウシバ（木本） ■シコタンキンボウゲ ■シロツメクサ ■セイヨウタンポポ ■チシマネコノメソウ ■ツボスミレ ■ツマトリソウ ■ツリバナ（木本） ■ツルコケモモ（木本） ■ツルスゲ ■ナガバツメクサ ■ナズナ ■ナナカマド（木本） ■ネコノメソウ ■ネムロブシダマ（木本） ■ノハラムラサキ ■バイケイソウ ■ハクサンスゲ ■ハナタネツケバナ ■ヒメカイウ ■ヒメシャクナゲ（木本） ■ヒメタガラシ ■フデリンドウ ■ホロムイツツジ（木本） ■マイヅルソウ ■マムシグサ ■ミズナラ（木本） ■ミツガシワ ■ミツバウツギ（木本） ■ミツバツチグリ ■ミミナグサ ■ミヤマザクラ（木本） ■ムジナスゲ ■ヤチスゲ ■ヤチダモ（木本） ■ヤチヤナギ（木本） ■ヤナギトラノオ ■ヤマグワ（木本） ■ヤラメスゲ ■ユキザサ ■レンブクソウ ■ワタスゲ（綿毛）

○温根内探勝木道周辺で観察された鳥（5月15日～6月14日）※和名は日本鳥類目録第7版の順

■マガモ ■キジバト ■アオバト（5/24 初認） ■アオサギ ■タンチョウ ■クイナ ■ツツドリ ■カッコウ ■アマツバメ ■オオジシギ ■トビ ■チュウヒ ■アリスイ ■コゲラ ■アカゲラ ■ハシボソガラス ■ハシブトガラス ■ハシブトガラ ■ヒガラ ■シジュウカラ ■ショウドウツバメ ■ヒヨドリ ■ウグイス ■エナガ ■エゾムシクイ ■センダイムシクイ ■マキノセンニュウ（6/10 初認） ■シマセンニュウ（6/3 初認） ■コヨシキリ（6/3 初認） ■ゴジュウカラ ■キバシリ ■アカハラ ■ノゴマ（5/24 初認） ■コルリ（5/24 初認） ■ノビタキ ■コサメビタキ（5/23 初認） ■キビタキ（5/17 初認） ■オオルリ ■ニューナイスズメ ■ピンズイ ■カワラヒワ ■ベニマシコ ■アオジ ■オオジュリン

※旬の自然情報についてはお気軽にスタッフまでお尋ねください。

※温根内木道周辺に咲いている花を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

☆☆☆☆☆自然ふれあい行事が開催されました☆☆☆☆☆



○早朝バードウォッチング 5月24日(日)開催 参加者: 20名
 タンチョウコミュニティ代表の音成氏を講師に、野鳥の観察会を行いました。今年から1時間早い8時からの開催でしたが、多くの参加者が集まりました。ビジターセンター前に現れたキビタキの観察から始まり、ペニマシコやニューナイスズメを観察。湿原ではノビタキやアオジをじっくりと観察し、合計19種の野鳥を確認することができました。



○春の湿原花ハイク 6月7日(日)開催 参加者: 14名
 植物の専門家である高嶋氏を講師に、花のシーズンを迎えた湿原で、植物の観察会を行いました。希少なハナタネツクバナの分布やミツガシワの花の仕組みや結実の話などを聞きました。また、目立たないがじつは見ごろのスゲの花の仕組みや識別方法の話、珍しいイネ科植物の話など、湿原を見続けている高嶋氏ならではの貴重な話を聞くことができました。

☆☆☆☆☆イベントのご案内(7月) 事前の申し込みが必要です☆☆☆☆☆

○温根内ビジターセンター ⇒お申込み ☎ 0154-65-2323

※ホテルウィーク(ホテルW)と無料ガイドウォーク(無料GW)は申し込み不要です。

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4 無料GW
5 初夏の湿原花ハイク	6	7 休館日	8	9	10	11 無料GW
12 無料GW	13	14 休館日	15 ホテルW	16 ホテルW	17 ホテルW	18 ホテルW 無料GW
19 ホテルW 無料GW	20 海の日 無料GW	21 臨時開館	22	23	24	25 無料GW
26 無料GW	27	28 臨時開館	29	30	31	

♪初夏の湿原花ハイク: 10:00~12:00 (定員15名) ♪ホテルW: 19:00~20:30 (定員無し、申込不要)
 ♪無料GW: 10時~、14時~ (1日2回開催、定員10名、申込不要、定員になり次第締め切り)

○塘路湖エコミュージアムセンター(あること) ⇒お申し込み ☎ 015-487-3003

♪土器づくり講座

〔日時〕7月12日(土) 10:00~14:00 〔定員〕15名(小学生は保護者同伴)
 〔参加費〕300円(材料費) 〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター



やちぼうすはそろそろ自分と周りの植物に隠れて見えなくなってしまう。

月刊 温根内通信 No.225

発行: 釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター
 〒085-0036 北海道阿寒郡鶴居村字温根内
 Tel: 0154-65-2323 Fax: 0154-65-2185
 E-mail: ovc@hokkai.or.jp
 ホームページ: <http://city.hokkai.or.jp/~kkr946/>

Facebook: [温根内ビジターセンター フェイスブック](#)

開館時間: 10:00~17:00(11月~3月は16:00まで)
 休館日: 毎週火曜日(12/29~1/3は休館) 入館無料